

京都御苑 ニュース

秋

紫式部と「老木の桂」

鳥居 万恭



老木の桂

自然はわれらを われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881 京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
一般財団法人 国民公園協会
京都御苑 池田善一

編集
白川書院

監修
環境省京都御苑管理事務所
本紙は再生紙を使用しています。



美しいハート型の桂の葉

清和院御門をくぐって苑内に入ると右すぐに散策路があります。季節ごとの風を受け、木立に囲まれた中を北に歩を踏み入れてしばらくすると心が和む香りが漂ってきます。新緑のころは薄らと甘く、落葉のころだと甘くて哀愁を含んだ香りとして漂ってきます。香りの主は京都迎賓館東南に植栽されている桂二本、さらに北へ二十メートルほどの所に一本、染殿第跡駒札近くにある三本、母と子の森文庫のそばに一本、そこから東北へ三十メートルほどの所に在する「老木の桂」、総数八本によって香りを奏でています。



土御門殿跡の秋の風情

桂の葉は双葉葵に似た心臓形をしています。葉柄が二葉ほどありますから樹下から眺めると美しいハート形が青空に映えます。花は葉が展開する前、三月後半ごろに開花しますが、花弁も萼もなく雄花の

粉をつくる器官は紅紫色、雌しべの柱頭も紅紫色です。一見、地味な花ですが、咲き誇っているのを見過ごしません。自生地は山地の谷沿いで、土石流等で倒れても主幹からひこばえが伸びて萌芽更新を行います。大地の中に水流がある所を好み、湿地はあまり好みません。この「老木の桂」(幹回り約三・七メートル、一九九五年)は主幹が枯死した状態で孫も含めて二十本(五本は幹回り一メートル以上)が株立ちして世代を繋いでいます。樹齢は何年かとも尋ねたいのですが、ご存知の方にはまだ、お目にかかっています。寛弘五年(一〇〇八年)秋に紫式部日記(黒川本)は書き始められています。「秋のけはひ入り立つままたに、土御門殿のありさ



清和院御門

ま、……。池のわたりのこずゑども……」と冒頭文で「土御門殿」の秋の風情を讀んでいる。紅葉した美しい樹木が池を中心とした庭を取り囲み、寝殿へは秋風が楚々と流れ込んでいることでしょうか。この「土御門殿」が一條天皇中宮彰子の父藤原道長の大邸宅なのです。南北の長さは二町(約三〇メートル)ほどあったようです。現在の地を言えば、清和院御門から西へ百五十メートルほど行ったらあたりです。對面をなすように、紫式部は清和院御門から東北へ百五十メートルほど行った所に邸宅を構えていました。今では、その場所には蘆山寺があり、藤原道長と紫式部はこのような近くに住んでいたのです。また、京極大路(寺町通)の東側を清流「中川」が南へ流れていたと言われています。紫式部は「中川」のせせらぎを聞きながら物語を書き進めたのでしよう。

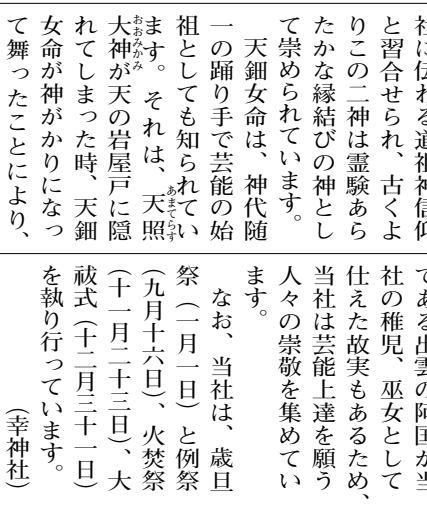
源氏物語は叙景の素材に数多くの植物を登場させます。物語が彩

り豊かになるのはこれらの草花の色と香りによってです。源氏物語第十一帖「花散里」では、桐壺院がなくなり、源氏二十五歳、須磨に隱遁する前の出来事を物語っています。「中川のほどおはし過ぐるに、ささやかなる家の、木立などよしばめるに」と紫式部は自邸をなすように、紫式部は清和院御門から東北へ百五十メートルほど行った所に邸宅を構えていました。今では、その場所には蘆山寺があり、藤原道長と紫式部はこのような近くに住んでいたのです。また、京極大路(寺町通)の東側を清流「中川」が南へ流れていたと言われています。紫式部は「中川」のせせらぎを聞きながら物語を書き進めたのでしよう。

ま、……。池のわたりのこずゑども……」と冒頭文で「土御門殿」の秋の風情を讀んでいる。紅葉した美しい樹木が池を中心とした庭を取り囲み、寝殿へは秋風が楚々と流れ込んでいることでしょうか。この「土御門殿」が一條天皇中宮彰子の父藤原道長の大邸宅なのです。南北の長さは二町(約三〇メートル)ほどあったようです。現在の地を言えば、清和院御門から西へ百五十メートルほど行ったらあたりです。對面をなすように、紫式部は清和院御門から東北へ百五十メートルほど行った所に邸宅を構えていました。今では、その場所には蘆山寺があり、藤原道長と紫式部はこのような近くに住んでいたのです。また、京極大路(寺町通)の東側を清流「中川」が南へ流れていたと言われています。紫式部は「中川」のせせらぎを聞きながら物語を書き進めたのでしよう。

京都御苑の東北隅の「猿ヶ辻」には御所を護る猿の神像が祀られています。同じように皇都を守るお猿さんが御所のすぐ近くにいます。京都御苑の東の石薬師御門に面した道をまっすぐ上がって、いくと、突き当たりに幸神社という小さなお社があります。当社の本殿東側の壁にも御所と同じ趣の三番叟(御幣を担ぐ猿の神像)が祀られており、共に表鬼門で、ある東北の空を雲上に眺望し、疫神・悪鬼・邪氣等の皇都への侵入を防いでいます。日本最古の縁結びの神としても知られる当社に始まり、天武天皇の白鳳元年(六六一)に再興され、平安京創建時(七九四)桓武天皇により皇都の鬼門除け守護神として造営されました。当時は社名を「出雲路道祖神」といっていましたが、江戸時代の初め現在の地に遷座された際に「幸神社」と改められました。

主祭神に祀られる猿田彦大神は、天つ神の御子(瓊瓊杵尊)が地に降りられると聞いて、先導するために天の八衢に立ち、高天原と葦原中国を照らしていた国つ神で、瓊瓊杵尊の道案内をされました。その時出会ったのが、瓊瓊杵尊の従者の一人であり、当社の相殿神に祀られる天鈿女命です。そのため、当社に伝わる道祖神信仰と習合せられ、古くよりこの二神は靈験あらたかな縁結びの神として崇められています。天鈿女命は、神代隨一の踊り手で芸能の始祖としても知られています。それは、天照大神が天の岩屋戸に隠れてしまった時、天鈿女命が神がかりになって舞ったことにより、



三番叟



幸神社

京都御苑の近隣を訪ねて

幸神社

古川 信雄

催事案内

平成27年京都御苑自然教室

初心者の方を対象に自然教室を行います。秋の御苑の草花やキノコ、昆虫や鳥を観察しましょう。

秋の自然教室「秋の御苑にふれよう」

11月29日(日)9:30~12:00

主催 環境省京都御苑管理事務所 TEL075(211)6348
一般財団法人 国民公園協会 京都御苑 TEL075(211)6364

講師 京都自然観察学習会の先生方に解説していただきます。

集合場所 京都御苑 石薬師御門前(上京区京都御苑内北東)

受付時間 当日 9:00~9:20

参加費 保険料100円

その他 筆記用具をご持参ください。手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具や雨具があると便利です。



*以降の自然教室予定
冬の自然教室 平成28年 1月 24日(日) 9:30~12:00

京都御所秋季一般公開

10月30日(金)~11月3日(火・祝)

入場時間 9:00~15:30

入口:宜秋門(ぎしゅうもん)

出口:清所門(せいしょもん)

清所門の最終退出時間は 16:15

照会先:宮内庁京都事務所 TEL 075(211)1211

「閑院宮邸跡」見学

京都御苑南西角にある「閑院宮邸跡」の収納展示室では、京都御苑の歴史や自然の資料が展示されています。庭園と併せてご利用ください。

収納展示室 9:00~16:00(16:30閉館) 入場無料

休館日/月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館)、年末年始

御苑の花暦

和名	開花期	主に見られる場所
ミヤギノハギ	7月~9月	児童公園、凝華洞跡東側付近
ヒガンバナ	9月中旬	御苑内の各草地
サザンカ	11月~2月	児童公園付近

会員募集

- 年会費 ●普通会費 1,000円以上
- 賛助会員(会社・団体) 10,000円以上

本会員への特典

1. 本会発行物をそのつど送付します。(御苑ニュースは会費収入で発行されています。)
2. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)

申し込み、問い合わせ先

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
住所 京都市上京区京都御苑3
〒602-0881 TEL075(211)6364

「京都御苑きのこ会」(写真⑤)では苑内の発生現場でその様子を観察し、「きのこ」を通して森を観る、森を通して自然を観る学習を継続しています。「木の子」は木の友でもあり、あらゆる生物との「共生者」だと思えます。(京都自然観察学習会)



①桜の幹に発生したカワウソタケの幼菌とキノコムシ×2種類



②カエデの立ち枯れの幹に単生したアラゲキクラゲ

えます。子孫を残す一役を果たしています。立ち枯れた広葉樹の幹や枝、倒木や切株に発生するキクラゲ(木耳)の仲間、アラゲキクラゲ(粗毛木耳)(写真②)は雨や雪の水分を待つて成長します。多年生の硬質菌コフキサルノコシカケ(粉吹猿腰掛)や、屋根の日本瓦の様なカワラタケ(瓦茸)などの仲間は腐生菌(木材腐朽菌)のグループで、倒木や落葉(植物遺体)の有

芝地や苔地には大小の傘を広げた管孔と柄が黄色いチチアワタケ(乳泡茸や、茶色の傘を滑り光らせた柄にツバがあるヌメリイグチ(滑猪口)(写真④)が顔をだし、傷をつける

チ(滑猪口)(写真④)が顔をだし、傷をつける瞬間に黄色から紺色に変色するイロガワリ(色変り)などのイグチ(猪口)類、また毒きのこが多いテングタケ(天狗茸)の仲間、時には数十本が輪を描いて林立するイボテングタケ(疣天狗茸)や、立ち姿の美しいツルタケ(鶴は五界、八界)説↓動物(消費者)・植物(生産者)・菌類(分解者)・還元者。

菌類である「きのこ」は動物と密接なかわりを維持しつつ、ひっそりと強かに生活している重要な生き物です。「京都御苑きのこ会」(写真⑤)では苑内の発生現場でその様子を観察し、「きのこ」を通して森を観る、森を通して自然を観る学習を継続しています。「木の子」は木の友でもあり、あらゆる生物との「共生者」だと思えます。(京都自然観察学習会)

地球温暖化のせいか、木々の紅葉も少しずつ遅くなってきているように思います。御苑には様々な紅葉する木があつて長く楽しむことができます。少し前の自然教室のこと。母子の森にあるカツラの木の近くで、メイプルシロップのような甘い香りがしてきました。

大学の学園祭シーズンで、ホットケーキでも焼いているのかなと思っていましたら、カツラの落葉した葉っぱからの香りであると教わりました。子どもの頃からクマゼミの声が「セミセミ……」と聞こえる私なので、醤油の匂いとも言われますが、甘く感じられます。

キノコや昆虫にも興味の範囲が広がり、生き物すべてが支えあつて生きていることを知ると、自然界にあるものすべてがいと美しく感じられます。

御苑の四季は美しい。秋の苑内はどこを歩いても思わずため息がもれるほど素晴らしい風景が広がっています。カサコソと落ち葉を踏みしめてゆつくりと歩くお散歩は心身を気持ちよく癒してくれます。

風景を身近に垣間見られる貴重な憩いの広場です。色とりどりに秋の花を咲かせる草花やのびのびと枝葉を広げる木々の空間には小鳥が歌い蝶が舞う。そして草木が茂るかたわらに目を凝らせば愛らしい姿の「きのこ」も見えてくるでしょう。きのこは「木の子」とも表現されるように植物の樹木や草花とは

とてもかかわりの深い仲です。また人間を含めた動物とは昆虫の殺菌「冬虫夏草」をはじめ、糞や遺体の分解菌としてカビや酵母と共にきのこ(菌類)は生き物の生命の輪をつなぐ大切な役割を担っています。苑内では「きのこ」を好んで食す美しい甲

虫、キノコムシ(茸虫)(写真①)や、キノコバエ(茸蠅)にも出会

えます。子孫を残す一役を果たしています。立ち枯れた広葉樹の幹や枝、倒木や切株に発生するキクラゲ(木耳)の仲間、アラゲキクラゲ(粗毛木耳)(写真②)は雨や雪の水分を待つて成長します。多年生の硬質菌コフキサルノコシカケ(粉吹猿腰掛)や、屋根の日本瓦の様なカワラタケ(瓦茸)などの仲間は腐生菌(木材腐朽菌)のグループで、倒木や落葉(植物遺体)の有

芝地や苔地には大小の傘を広げた管孔と柄が黄色いチチアワタケ(乳泡茸や、茶色の傘を滑り光らせた柄にツバがあるヌメリイグチ(滑猪口)(写真④)が顔をだし、傷をつける

チ(滑猪口)(写真④)が顔をだし、傷をつける瞬間に黄色から紺色に変色するイロガワリ(色変り)などのイグチ(猪口)類、また毒きのこが多いテングタケ(天狗茸)の仲間、時には数十本が輪を描いて林立するイボテングタケ(疣天狗茸)や、立ち姿の美しいツルタケ(鶴は五界、八界)説↓動物(消費者)・植物(生産者)・菌類(分解者)・還元者。

菌類である「きのこ」は動物と密接なかわりを維持しつつ、ひっそりと強かに生活している重要な生き物です。「京都御苑きのこ会」(写真⑤)では苑内の発生現場でその様子を観察し、「きのこ」を通して森を観る、森を通して自然を観る学習を継続しています。「木の子」は木の友でもあり、あらゆる生物との「共生者」だと思えます。(京都自然観察学習会)

地球温暖化のせいか、木々の紅葉も少しずつ遅くなってきているように思います。御苑には様々な紅葉する木があつて長く楽しむことができます。少し前の自然教室のこと。母子の森にあるカツラの木の近くで、メイプルシロップのような甘い香りがしてきました。

大学の学園祭シーズンで、ホットケーキでも焼いているのかなと思っていましたら、カツラの落葉した葉っぱからの香りであると教わりました。子どもの頃からクマゼミの声が「セミセミ……」と聞こえる私なので、醤油の匂いとも言われますが、甘く感じられます。

キノコや昆虫にも興味の範囲が広がり、生き物すべてが支えあつて生きていることを知ると、自然界にあるものすべてがいと美しく感じられます。

御苑・いのちの風景・「きのこ」は共生者
秋に歩く
佐野 修治



③草地に束生したハタケシメジの成菌(黒色タイフ)



④雨上がりの苔地に発生したヌメリイグチの幼菌



⑤秋の「京都御苑きのこ会」例会(記念集合写真)

京都御苑の自然に親しむ
香りで秋を楽しむ

橋川 篤子



母子の森にあるカツラの木